カトリック高松教区報

２０１４年７月１３日（第１６２号）
発行所　カトリック高松司教区　広報委員会
〒760-0074　高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659　FAX 087-833-1484
Email
教区：catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.ne.jp
広報：tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成：　yousei@takamatsu.catholic.ne.jp
WEB://www.takamatsu.catholic.ne.jp/

マザー・テレサの言葉

祈るとき、
わたしたちは 神さまの
愛の光になります。
修道院において、
私たちが生きている
ところで、
そして ついには、
全世界のために。

丸亀教会献堂式

市長ら列席し喜び祝う

6月8日「聖霊降臨（教会誕生）の祝日」に、丸亀教会は、新聖堂の献堂式を迎えた。心配された梅雨空も、式典の始まる頃には、陽の光が眩しく輝やいていた。新聖堂には、この教会に所縁のあるシスター方、創建当時を知る信者の方々、フィリピン、ペルーを始め外国の人たち、聖母幼稚園の関係者や卒園生、建築関係の方々、丸亀市長様を始め自治会長様、民生委員、教会近隣の方々も列席され、この喜びの日を共に祝うために、家族が一つに集っていた。

諏訪司教様を始め司祭団の入堂、開祭の祈りの後、聖水の祝別が行われ、諏訪司教様の下、新聖堂すべてを祝別し、荘厳なミサのうちに滞りなく行われた。

丸亀市のシンボルともなる丸亀教会

以前より少し狭くなりましたが、斬新な設計とコンパクトながらも機能性を重視した、「明るく使いやすい教会だと」信徒一同喜びを表し、献堂式の後は、参列者一同が信徒会館に集まり、ささやかなお祝いのパーティーで久しぶりに顔を合わせた人達が、時の経つのも忘れて歓談している微笑ましい光景があちこちで見られました。

「自分達の教会だけではなく、地域住民の皆さんのコミュニティーの場所として」との司教様のお話しのように、丸亀教会のコンセプトを考えてこれから大切に末長く、祈りの場所として使って行きたいと思います。

丸亀教会　太田　脩

東日本大震災を機に、耐震並びに災害に強い建造物の必要性が問われ始め、築50年ということも考慮し、2年前に建設委員会を立ち上げ、新聖堂建設に踏み切りました。

20年前よりスペイン外国宣教会、又、信徒皆の協力で経済的準備を進めて参りました。教会建設に向けて、司教様を先頭に、フェルナンド神父、各ブロックの代表者が集まり、どのような教会を建設すべきかについて、何回も話し合いの場が持たれました。

その結果、愛である神の子どもとして、すべての人を受け容れる、社会に開かれた教会、信徒一人ひとりが、疲れた人、弱い立場に置かれた人たちを思いやる、真の神の家族として成長するよう、内なる教会建設をも目指すものということになりました。

地域に開かれた教会を

諏訪司教様は説教の中で、ミレーの「落ち穂拾い」の絵を示されて、「土地」の持つ意味をお話し下さいました。聖書の世界では、土地は個人の所有物ではないこと、どのような土地であれ、それは全て神様のものであると語られました。

多目的な場となることを願って建設された新しい教会が、教会だけのもの、又、私たち信者だけのものではなく、神様がすべての土地を慈しまれたように、常に、この地域と社会に向かって、開かれた場として根差していくようにとの、深い課題を与えられました。

この大きな課題を前に、一人ひとりの弱さを思う時、立ち尽し怯みそうになりますが、新聖堂に掲げられた主の十字架を仰ぎつつ、神様の無償の愛、無限の愛の中で、互いに、赦し合い支え合って、「疲れた者、重荷を負う者は、だれでも私のもとに来なさい」（マタイ11章28節）という主のみ言葉を心に刻み、小さな声に耳を傾けつつ、社会に奉仕できる丸亀教会となるよう努めて参りたいと思います。

多目的な場の第一歩として、献堂式の最後に、聖母幼稚園の園児たちの清らかな歌声と聖マルチン病院コーラス部による賛美の歌が、目に見える形として披露されました。これからは、地域の中の様々な活動の場として、この教会を開いていくことで、地域の絆を強め、神様との出会いの場となるように、聖霊に導かれ、皆で祈り続けたいと願っています。

「信じた人々の群れは心も思いも一つにし、一人として持ち物を自分のものだという者はなく、すべてを共有していた。」（使徒言行録4章32節）

新しい教会が、この初代教会の小さな群れの始まりに立ち返り、思いやりと憐れみの心を持って、主の愛を証しするために出掛けるよう、フェルナンド神父様は、私たちを駆り立てます。新しい船は、漕ぎ出しました。今一度あの小さな群れに倣って、心も思いも一つにし、聖霊の風を受け、皆でこの船を漕いで参ります。

式典にご参加くださった皆様、又、たくさんの祈りで支えてくださった皆様、多くの方々のご支援のお蔭で、この日を迎えられましたことを、心から感謝申し上げます。この場をお借りして、お礼申し上げます。神のみ手である教会の扉は、いつも誰にでも開かれています。祈りと出会いと喜びと光あふれる新聖堂に、様々な機会の場を設け、これからお会いできますことを、心よりお祈り致します。

丸亀教会　香川法子

新築なった徳島教会信徒会館

信仰を証する新拠点へ

徳島教会　信徒会館が落成

２０１４年５月25日（日）、澄み渡る青空に恵まれ徳島教会の新しい信徒会館を祝う、感謝のミサと祝別・落成式が諏訪榮治郎司教様司式により行われました。

祝別式では、ルカ福音書24・28～32を村上康助神父様が朗読され、信徒の「新しい歌を主に歌え」の歌声の中、新信徒会館の祝福を諏訪司教様が行なわれました。

落成式では、無事故で工期通りに完成させていただいた感謝の気持ちとして、諏訪司教様より戸田建設株式会社　四国支店様に感謝状と記念品をお贈りし、謝辞を北村雅彰支店長様より頂戴いたしました。こちらこそ、この小規模の建物を請け負って下さり、建設中は熱心に教会の意向を聞いて下さいました。関わって下さった社員の皆様とすべての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

また、お祝いの言葉をシルバー神父様より頂戴いたしました。その後、参列者約１５０人で乾杯をし、小宴となりました。前日に焼いた徳島教会名物ケーキも、前列にとっても可愛くおめかししてお客様を歓迎していました。

御寄附により、ホールに設置されたグランドピアノでのお披露目曲「アイネ・クライネ・ナハトムジーク-抜粋-」の連弾演奏や、男性２人の歌声がホールに響きました。

そして、何よりも３人のシスター方が御参列下さったことは、徳島教会にとって、とても大きなお恵みとなりました。ありがとうございました。

新信徒会館は平屋で広さは約78坪、“明るい教会”を願い、間取りを考え大きな窓、空間を確保し、バリアフリーにも対応しています。今後は教会活動・行事を通して信者同士の結びつきが一層強まり、信仰をあかしする場となることを願っています。そして、地域社会へ向けて、カトリック教会としての宣教活動の機能の、より一層の充実に繋がればと願っています。

信徒会館建替え案は１９９４年に始まり、２年前には、オブレート会から教区司祭の責任担当となり、建設中には担当司祭の交代もありましたが、これまで幾度も熱心な話し合いやアンケート調査を行い、問題点を克服しながら進めてきた信徒会館建設でした。すべてが神様のご計画であることに感謝しています。

最後に、今日に至るまでに頂きました皆様方からのお祈りとご寄付に支えられて落成の運びとなりましたことを本当に感謝申し上げますと共に、今後もカトリック徳島教会になお一層の御支援とご指導を賜りますようによろしくお願い申し上げます。

カトリック徳島教会
小教区評議会議長
桑原　稔実

母へ心温まるお祈りに感謝

このたびは母、幼きイエズスの聖テレジア　諏訪泰江の帰天に際し皆さまのお祈り、心温まる弔電、生花を賜り、心から御礼申しあげます。

母は昨年1月に脳出血で倒れ、手術を受けましたが、左麻痺、言語喪失、嚥下不能となりました。残された時間を住み慣れた自宅で過ごさせてあげたいと考え、胃瘻の手術後、神戸リハビリテーション病院で2ヶ月のリハビリを経て、在宅介護が始まりましたが5月9日の朝、母は95年の生涯を主の御手にゆだね、永遠の安息へと旅立ちました。

母は幼い時、幼きイエズスの聖テレジアを日本に紹介したパリミッション会のブスケ神父より洗礼を受け、生涯を信仰のうちに生きました。苦しい闘病生活の間も、穏やかにすべてを受け入れ、最後まで懸命に生きた母でした。母と幸せな時間をともに過ごせたことを心から神様に感謝しております。たくさんのお祈りありがとうございました。

諏訪榮治郎

はばたき

夏になった。今年も酷暑の夏になるのだろう。老いの身にとって試練の季節になるのだが、神様がともにいてくだされば、とのんびり構えている。

これからお盆、終戦記念日、原爆忌などを迎えて死者を想い墓地を訪れる機会も多い。松山教会の衣山墓地の真ん中に高さ3・5メートルの『長崎キリシタン流謫碑』が建つ。明治初年『浦上四番崩れ』で松山へ流された86人の浦上の信徒の苦難の歴史を伝える。

その信徒の中に山口宅助少年がいた。明治6年、キリシタン禁止の高札撤廃で釈放され浦上へ帰還、成長した山口少年は司祭に召され長崎各地で働かれた。昭和12年、74歳の高齢を迎えた山口神父は64年ぶりに松山を再訪し、ドミニコ会のモデスト神父（当時四国知牧長）らの協力で念願の流謫碑を建てた。

3年半の捕囚の間、松山では厳しい拷問などはなかったもののムシロに座らされ『教えを捨てろ』と説諭が続けられた。信徒たちは『お役人、あなたの方が間違っている』と堂々と主張するなどして信仰を守りぬいた。

その間、8人が赤痢などで死亡、小さな墓碑2基が残る。墓参の際には、松山で過酷な牢生活を耐え信仰を守った長崎・浦上の聖なる無名の信徒たちがいたことを思い出してほしい。

小教区紹介
今治教会（愛媛）

カトリック今治教会は、ＪＲ今治駅から徒歩5分、今治市のほぼ中心部にあります。１９２６（大正15）年、マカリオ・ルイス神父様が今治市に着任され、民家を借りて仮教会とし、宣教が始まりました。

最初の教会は、１９３３（昭和８）年、現在と同じ宝来町に幼稚園も併設して、立派な教会が献堂されました。しかし建築後12年にして、昭和20年8月6日、広島原爆投下の8時間前から始まった、B29による爆撃で焼失してしまいました。

戦後復興の新教会が、昭和24年に再建され、現在の教会に建て替えられるまでの27年間使われました。この教会は、質素ながら若葉幼稚園と共に、復興期の活発な活動の舞台にもなりました。

現在の教会は、１９７２（昭和47）年に聖堂、司祭館、信徒ホール、幼稚園を一体とし、教会・幼稚園共に社会に開かれた合理的な合築として落成しました。聖堂に入ると、12面の美しいステンド・グラスが語りかけてくれます。正面祭壇の左右には「幼子イエスと母マリア」「被昇天のマリア」、天井には「復活され天に昇るイエス」と「恐れるな私が共にいる」。南側壁面には2人の弟子の「エマオへの道行」の6面。これらのステンド・グラスを通して福音の光があたたかく降りそそぐなかで、多くの外国の方々と共に感謝のミサを捧げています。

私共の教会も、若者が少なく高齢者が多いのですが、若い世代への励ましと繁栄を願い、長寿の恵みを生かし共に歩む

長寿の恵みを生かし共に歩む

し、老若男女相和して、元気で奉仕の道を歩む事が出来るよう皆で祈っております。

最近の明るいニュースとして、侍者の育成に努めてこられた川上神父様のご指導により、小学5年生の西津裕貴君が立派な侍者に成長されたことがあります。背筋をシャンと伸ばし微動だにしない彼の姿は、本当に頼もしくうれしいことで、今後の成長が楽しみです。

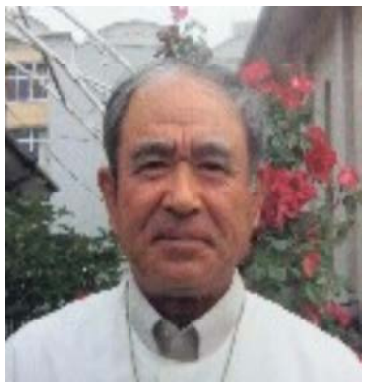
もう1つのよろこびとして、教会墓地の等身大のマリア像が、猪野ヒサ子様の寄贈により建立されたことです。8月の聖母被昇天の祝日に、カンバラ神父様から祝別をいただく予定です。純白のマリア様のお姿が、墓地全体を優しく見守って下さるでしょう。

また今年度の行事計画の中で、晩秋に開催予定の4回目のチャリティー・バザーは、教会と信徒・幼稚園と父兄が一致協力して、社会に向かって開かれた教会を示す実践の場となることでしょう。過去3回の成功体験をもとに今年も皆で頑張ることになっております。

この今治教会は、2年先の２０１６年に創立90周年を迎えます。先達が築かれた宣教の祈りを受け継いで、デシデリオ・カンバラ神父様と共に信徒一同祈りながら、新しい旅立ちを力強く歩んでまいります。

今治教会　新居田大作

ひと　教会の庭の手入れ
徳島教会　西村　尊美（たかみ）さん（74歳）



地球歴、信徒歴共に74歳の西村尊美さんは、長崎県西海市生まれです。

カトリック大島教会で洗礼を受け（聖ミカエル）、信仰を育みました。大田尾教会で結婚式を挙げ、当時未信徒だった奥様をクリスチャンへと導きます。

結婚された頃は石炭が黒いダイヤと呼ばれていた時代で、西村さんも炭鉱で働いていたそうです。地下2000メートルでの電気工事の仕事です。暗く狭い場所が苦手なのは、炭鉱での作業のせいなのでしょうか。

その後、生活の拠点を神奈川県の茅ヶ崎に移します。その7年間は、お兄様のところで看板製作の仕事に明け暮れる毎日でした。いま、一番悔やまれることがその頃に教会から離れていたことだそうです。

最後の居所が徳島です。ここでBr八木のご両親と出会います。信仰深い八木家がご近所だったのは、神様の計らいだったのでしょう。やっと教会へ行けるようになり、再び神さまとつながることが出来ました。

現在は、庭師の資格を取り、シルバー人材センターで、リーダーとして活躍しながら、教会の庭の手入れに力を注いでいます。また、これまで身に着けた技術が教会のために役立っています。バザー、クリスマス、ファミリーキャンプやホール建設のための引っ越し作業、教会の修繕など、どんな時でも「身体が動く限りはやりますからね」といいながら。

西村さんは、確かに神様を身に感じながら「私をお使いください」の歌そのままに生きておられる方です。

生田久美子

ちょっとひといき

手

それは
祈るためにある
人々の肩を抱いて
優しさを
配るためにある

目

僕のは
今まで汚れていたけど
花を写したから
空を見上げたから
主よ　あなたを宿した
から
今はきれいです

兄弟のように共に住むのは美しい

月曜日の朝はいつも決まって「今日は誰から」「何章から」と発表の順番を数えたり、こどもの頃に返ったように楽しかったものです。

欠席者の名前を呼び、その人に想いを馳せながらテーマソングの「兄弟のように」の歌と祈りで始められました。12時の予定はいつもオーバーで、何度か時間通りにと小さな抵抗をもしましたが、西川先生の熱心さに負けました。

最初の頃は寡黙な男性Sさんに会釈する位しか出来ませんでしたが、今では大きな声で挨拶できるようになりました。

預言書で解らない所があった時、男性Hさんから「読んでしまった本だから」と参考になる本を頂き、まるで父に新しい本を買ってもらった時の様に嬉しい思いでした。また、分かち合いの中では知識を得るだけでなく、み言葉がいつも生活に溶け込んでいる女性Yさんには「聖書をしっかり読みなさい」と教わりました。

病気で入院した家族の看病など、いろいろな事情で休みながらの6年間でしたが、一人ではとても読み切れなかったことでしょう。この歳でカタカナの固有名詞はなかなか覚えられませんが、全体的なことはよく解り、特に旧約はミサの中でも少しづつ深められてきたと感じます。

個人では到底なし得られなかった達成感はいつも誰かに支えられ、誰かを支えているという想いが結び合って、大きな力となり私を押してくれたと感じます。

旧約の中では様々な場所や時代背景の中に織りなされた神と人間の歴史は新約のイエスという一人へ凝縮されていきました。イエスは言われます「私のことばに留まるならば、あなた達は本当に私の弟子である」と。聖書を通して主の栄光の足跡を慕って歩んできた私たちは、同じみ言葉を信じた兄弟であり、神の家族の一員であると信じます。

兄弟のように共に住むのは　兄弟のように共に住むのは　美しく美しく楽しいこと　美しく美しく楽しいこと

桜町教会　森　婦美

〈全聖書読み終えて〉④
足かけ７年　充実の時間

「今日の講座をもって終了とします」の講師の言葉に思わず深く息を吐きました。足かけ7年の年月を休み乍らも、今日この日を迎えられたこと、私にとって大きな、大きな「はなまる」なのです。毎時間聖書の言葉を、心と頭に刻みこみ、充実した足取りでその日はかえります。しかし現実は厳しく、時間がたつと悲しいかな百分の一、千分の1が心にとどまり、他は逃げ出していくのです。でも百分の一、千分の一も百回、千回重ねれば百、千になるのが道理ですから、継続すれば萬に近づくことができるわけです。そうしながら　ごミサの典礼のことばの意味合いとか旧約と新約の繋がりが随分理解しやすく成りました。

一緒に学んだ人たちとも連帯感が生まれ、このまま解散してしまうのが残念に思えます。これからは色とりどりで傍線を引いた聖書を、新たな出会いを期待して読み返したいと思います。

桜町教会　楠　信子

出会いは喜びです　赤波江豊師
～よろしく～
共に歩みましょう　ロビンソン師

6月1日より大阪教区から高松教区に派遣されました赤波江神父です。現在桜町教会を担当しています。

私は今までは高松教区とは関わったことがありませんでした。ですから大阪の隣の教区に派遣されたというよりは、知らない土地に宣教師として来たような新鮮な気持ちです。

私は今まで6つの教会を司牧し、2つの国（イタリア、タイ）での生活も経験しました。それぞれの教会と国で多くの人と出会い、信仰のお恵みを頂きました。この高松教区でも多くの人と出会うでしょう。出会いは喜びです。出会いは人生です。今年は私にとって司祭叙階銀祝という人生節目の年でもあります。この年、神は私に新しい使命を与えて下さいました。それが高松教区との関わりです。

来年２０１５年は高山右近帰天４００年と長崎の信徒再発見１５０年と、日本の教会にとっても恵みの年に当たります。

私もこれから高松教区の皆さんとの出会いを通して、皆さんと共に信仰の喜びの「再発見」に励みます。

オブレート会のロバート・ロビンソンと申します。ロビンソンと呼んでください。温かいスリランカからまいりました。心も温かいです。

２０１０年8月25日、ローマにいるオブレート会総長から任命されて来日しました。それから、福岡の古賀教会で勤めながら、日本語学校に通っていました。日本語学校を卒業してから豊橋教会に任命されました。

今年の4月1日から三本松教会の担当司祭、また カトリック高松司教区・外国人宣教司牧担当司祭としての任命を受けました。

趣味は、自然の写真を撮ること、またキーボードやギターを弾くことです。

これまでの日本の生活を通しての印象は、時間通り、清潔、礼儀正しい、この3点で、便利だけど物価が高いことが大変だと思います。

それでも、私たちの時代ほど恵まれた時代は今まで地球上に存在していませんでした。ですから、問題があっても私たちに与えられている様々な恵みに感謝しながら、元気よく兄弟姉妹として共に歩んでいきましょう。

神様の力に強められ、皆様のご協力をいただきながら、一緒に新たな道を歩んで行きたいと思います。

よろしくお願いします。

若い力

『イエス様の生涯を巡る』

高松教区・子ども＆中高生の集い

5月31日から6月1日まで、北条のカタリナ・セミナーハウスにて、「イエスさまの生涯を巡る」をテーマに、子ども＆中高生の集いが行われ、小学3年生～大学生迄の30名と世話係まで、60名が集まりました。聖書を自分で開き、イエスさまのみことばをゆっくり読み、そして、イエスさまの生涯や教えを絵に描いてみました。さらに、その絵をセミナーハウス中に散らばせて、たくさんのポイント箇所を作り、みんなでそこをオリエンテーリングのように巡ってみました。自分で読んだ聖書の箇所が絵になり、その絵をみんなが目指して歩き、一緒にイエスさまの生涯をたどってみました。運動会の関係で、例年よりも参加者は少なかったのですが、その分、和やかな家族的な雰囲気あふれるお恵みの2日間でした。以下は子どもたちが何を学んだかの報告です。

皆と仲良くなれた

小4年　平川稟乃

私は2回目の参加でした。シスターの運転で2時間少しかかり、着いてから、おばあちゃん手作りのお弁当を食べました。皆が集まってから、班分けで1班になりました。はじめに田中神父様から「ありがとう」と「有り難い」の違いのお話を聞きました。そして班で絵作りもあり、皆と仲良くなれました。

私の班は誕生したイエス様と洗礼を受けるイエス様です。一人でするより皆で協力して描く方が上手にできることが絵作りで分かりました。

あとからの青年カンボジア・スタディーツアー発表では、そんな哀しい国があるのかが分かり、少し怖かったです。日本がそんな哀しい国でなくて良かったです。

2日目はモンチッチ海岸に行きました。海辺が猿の手に似ているのでこの名前が付いたといっていました。私はモンキー海岸にすればいいのにと思いました。

この日は班のリーダーの誕生日だったのでサプライズをしたら、とても喜んでくれました。そして、イエス様のことも少しわかりました。夜も友達と楽しく遊び、帰りたくなくなりました。

来年も見送ってくれた皆と会うのが待ち遠しいです。ありがとうございました。

偉大な人イエス様

小6年　平川　凜

今年も参加し、去年来ていた人もいて、名前を覚えてくれていたのが嬉しかったです。

今年のテーマは「イエス様の生涯を巡る」で、それぞれの班での活動の前に田中神父様のお話を聞きました。「ありがとう」と言うのは「有るのが難しい」という意味で、いつも何気なく使っている言葉だけど、よく考えてみると深い意味があるんだと思いました。

それから班ごとに聖書を読みました。私たちの班は「エリコの盲人」と「ほうとう息子」の話でした。

夕食のメニューはハンバーグで、とてもおいしかったです。ごちそうさまの後、班で聖書の場面の絵をかきました。私はエリコの盲人の絵を描いて、イエス様がエリコの町に行ったときに、盲人が助けを求める場面を選び、まあまあ上手に描けました。その後、青年カンボジア・スタディーツアーのお話をきいて、大変な国だなと思いました。

翌日は朝からモンチッチ海岸で朝食があり、とても気持ちよく美味しく頂きました。

ハウスに帰り、絵の発表では少し緊張しました。次に、楽しみにしていた「人間すごろく」が始まりました。エリコの盲人のところでは目隠しをして、声だけで誘導してもらい、コースを1周します。目が見えないって、こんなに怖いのかと、目が見えない人の気持ちがよく分かりました。

他に、相手の良いところを書くコーナーでは、仲間の良いところをたくさん、書きました。本当に楽しかったです。

この2日間で友達もたくさんできました。聖書も読んでイエス様の偉大さが少しだけどわかりました。中学生になる来年もまた参加して、イエス様のことをもっと知りたいです。

そして友達も、もっとたくさん作りたいです。

聖書の話描けたよ

中2年　平川沙樹

今回は前回とはまた違った貴重な体験をさせてもらいました。

オリエンテーションでアイスブレイクをしたり、班や全体で自己紹介をしたりしました。余り時間はなかったけれどたくさんの参加している人と話すことが出来ました。

神父様のお話を聞き、聖書を読んでそれを表現する活動もしました。正直、私は聖書を隅から隅まで読んだことはありません。でも、松山教会の小3の女の子がペラペラと聖書の内容を話すのには本当に感動を覚えました。それでも難しいと思うところは青年の皆さんと一緒に考えたり、ブラザーが助言してくれたりと、とても良いふんいきの中で、分かち合うことが出来ました。

夕食をはさんで、さっきの聖書の内容を班の皆で協力しながら絵にして完成することが出来ました。それから、青年の方たちのカンボジアツアーの様子も聞かせてもらいました。

今回の集いに参加できたことは幸せって何か、を考える良い機会になりました。　2日目は朝から海に行きました。お祈りの後、朝食を食べ、少し海に入って結構楽しかったです。それからハウスに戻り、各チームの絵を見て回りました。どれも上手に描けていてすごいと感じました。

それから、その絵を使って人間すごろくを楽しみました。小学生がはしゃいで先に行ってしまうので、嬉しかったけど、ついて行くのがハードでした。なんだかんだいいつつも一緒に楽しませてもらいました。

最後は感謝ミサで解散でしたが、本当に良い体験でした。

準備してくださった方々やちびっこたちと一緒に参加できて良かったと心から思いました。

私のいいとこは？

中1年　平川莉那

私はこの集いは4回目でしたが、友達が出来るかどうかとても不安でした。私たち中学生は3人しかいませんでした。自己紹介をしたり、「タラントンの話」と「5つのパンと2匹の魚」を絵にしたりしました。

それから、カンボジア・スタディーツアーの話の中で、怖い牢屋跡の骨のこととか、赤ちゃんが木に叩きつけられて死んでいった悲惨な話を聞いて、そんな時代に生まれなくて良かったと思いました。

寝る前には同じ部屋の人と楽しく話が出来て不安も吹き飛びました。

次の朝は海に行き、水遊びや石投げを楽しみました。ハウスに戻ってからの絵の発表の後、イエス様の生涯をたどる人間すごろくの中には魚釣りとか紙芝居もありました。

一番心に残ったのは班の仲間の良いところを書き合ったことです。皆は私のどんな良いところを書いてくれているのか期待しながら、他の仲間の良いところを沢山書きました。

あとで見てみると意外なことをいっぱい書いてくれていたのでとても嬉しかったです。

短い間だったけど、人間すごろくで、良い分かち合いが出来たと思っています。

大阪教会管区大船渡ベースの救援・復興活動プロジェクト２０１３年度実績

科目	科目の説明	２０１３年度 予算	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	合計	備考
賃借料	アパート賃貸費用	3,128,000	780,150	780,150	780,150	780,420	3,120,870	スタッフ住居,平山邸、グランウッズ１０１号室家賃・駐車場代２台
備品購入費	ベースの什器備品	0					0	10万円を超えるもの
人件費	給与手当（スタッフ）	9,960,000	1,613,983	1,489,796	1,058,522	1,012,464	5,174,765	２名
	給与手当（パート）	2,350,000	561,550	411,618	459,318	474,140	1,906,626	４名
旅費交通費	スタッフ	630,000	59,126	11,932	42,086	176,827	329,011	全ベース会議宿泊交通費他
	招聘したボランティア	0					0	
	ガソリン、高速道路料金	510,000	198,925	134,237	123,546	249,701	667,369	
事務運営費	事務機器購入費用	0	22,536				22,536	10万円未満、PC、プリンター等備品
	文具等事務用品	528,000	26,584	5,584	46,855	54,025	133,048	
消耗品費	救援活動備品	560,000	78,923	116,931	116,776	103,743	416,373	カッパ，長靴、手袋等
	ボランティア用食材料費	1,480,000	273,430	308,419	225,786	220,706	1,028,341	
通信費	電話料、携帯端末使用料	180,000	37,904	59,382	28,722	63,258	189,266	
	切手、宅急便等運送料	72,000	7,810	6,480	18,280	1,010	33,580	
リース料	レンタカーなど	120,000					0	
水道光熱費	上下水道、ガス、灯油等	1,080,000	362,148	257,692	301,324	327,812	1,248,976	平山邸・グランウッズ２室・大船渡ベース・駐車場２台
保険料	傷害保険、車両保険	1,020,000	156,127	215,904	320,078	101,581	793,690	ボランティア保険料52万円　自動車保険料21万円　火災保険料　6万円
車両費	タイヤ交換、点検費用	60,000			86,300	-10,900	75,400	ノア　スタットレスタイヤ購入
修繕費	施設、設備保守点検費用	100,000		10,815		9,712	20,527	デジタルカメラ修理他
支払手数料	郵便振替手数料等	12,000	2,505	2,120	2,155	4,460	11,240	
資料図書費	新聞・図書・DVD等	120,000	14,940	26,605	33,900	26,515	101,960	東海新報・岩手日報・カトリック新聞購読料他
研修費	講習会等	60,000						
接待交際費	慶弔費等	0				10,000	10,000	
公租公課	印紙、自動車税	50,000	41,700				41,700	自動車税　２台
会議費	スタッフ打合せ食事代	120,000				46,750	46,750	懇親会補助費用
援助物資	救援物資	840,000	306,922	368,470	277,925	215,226	1,168,543	
	お茶っこ・イベント	960,000	24,331	90,621	47,736	242,070	404,758	
	こども献金(遺児のため)		93,895			96,000	189,895	
	支出合計	23,940,000	4,663,489	4,296,756	3,969,459	4,205,520	17,135,224	

医療のともしび（41）

日本と米国の患者さん どちらが幸せ？

米国は分かり易すくいえば、お金があれば良い医療が受けられ、なければ程度を下げられ、全くお金がなければ診療を断わられる場合があります。　ここでいうお金とは個人財産というより、掛け金で支払っている私的な医療保険のことをいいます。私の科のことでいえば、良い医療保険を持っているひとには最新の人工関節が入り、そうでない医療保険を持っているひとは、以前からの安い人工関節が入ります。外来は一般医から診療依頼された患者さんが来て 約20分間の持ち時間を使い、ゆったりと行われます。医師とゆっくり話もできます。

一方 ３～５回程度診察を受け、よくならない場合、手術適応があると判断されれば、その旨を告げられ、同意するか聞かれます。手術するかしないかは患者さんの自由意思です。手術するとなると翌週くらいには手術が受けられます。しない決定をした場合 次回来院することはできません。整形外科医に手術適応があると判断され 手術に同意しない場合、通院は出来なくなります。手術の適応は医師が決め、それを受けるかは患者さんが決めますが、最終的実施は医療保険の許可を受けることになります。医師 患者とも医療保険に連絡し、手術内容の許可を得なければなりません。手術後の入院期間は短いほどよいと医療保険は考えます。（お金をだしたくないので当然ですね。）

人工関節なら4～5日で退院となっています。それ以降入院継続希望の場合 医療保険から保険が降りてこないので痛くても退院するしかありません。

一方、日本ではどうでしょうか。医療保険は公的で、誰にでも公平に最新の医療が行われます。人工関節の種類に差をつけることは原則ありません。外来では手術適応があって希望しない場合でも引き続き通院することは可能です。外来の診療時間は3～5分くらいと短いことが多いですが（ゆっくり話は出来ません）医療保険への医療の実施前に許可を得ることはほぼありません。通常は医師と患者さん間の話で先に進みます。人工関節の手術後は病院によっては2週間程度で退院となりますが、病院によっては数週間リハビリをした後の退院でもよいところがあります。

あなたはどちらの国に住みたいですか？米国の患者さんの表情は、作り笑いはたくさんありましたが、私にはなんとなく平均的に辛そうに見えました。一方で日本の患者さんは喜怒哀楽織り交ぜながら多彩な表情をみせてくれます。お友達感覚で接していただける方もいらっしゃいます。私には自由という点で日本の医療に旗をあげたいと思います。

坂出聖マルチン病院
整形外科 田賀谷健一

教区スケジュール

7月
13日（日）年間第15主日
19日（土）宣教司牧評議会役員会13：00
20日（日）年間第16主日　高山右近祭in桜町司教座聖堂
21日（月）海の日
25日（金）聖ヤコブ使徒　（祝）
26日（土）聖ヨアキムと聖アンナ（記）
27日（日）年間第17主日
29日（火）聖マルタ　（記）　顧問会10：30／静修14：00

8月
3日（日）年間第18主日
5日（火）～6日（水）広島平和行進
6日（水）主の変容　（祝）　広島平和記念日
日本カトリック平和旬間（～15日）
10日（日）年間第19主日
12日（火）下田武雄師命日（3周忌）
13日（水）～20日（日）アジアンユースデイin韓国
15日（金）聖母被昇天　　終戦記念日
16日（土）～17日（日）韓国ツアー（教皇ミサ参加）
17日（日）年間第20主日　平和を願うミサ（主日ミサ）
22日（金）天の元后聖マリア（記）
24日（日）年間第21主日
27日（水）聖モニカ　（記）　佐々木光雄師命日
29日（金）洗礼者ヨハネの殉教（記）
31日（日）年間第22主日

ＴＳＣ便り

東日本大震災復興支援全国担当者会議報告 上

深刻な放射能の汚染

子どもへの影響恐れる

第4回となる同会議は北海道から沖縄まで14教区の神父、信徒、修道者、スタッフなど高松教区からも信徒3名を含め、全国各地から77名が参加し郡山を拠点に行われた。

6月24日～25日は3コースに分かれて現地を視察、高松教区の3名は福島の北回りコースに加わり、二本松市、南相馬市、福島市を訪れ高レベルの放射線に曝されて未だ人の住めない住宅地、荒れ果てた田畑、牧場、除染作業の現場などを見た。行く先々の教会に立ち寄って被災者の支援グループの方から支援活動の状況、原発の禍に苦悩する人々たちの思いのさまざまを聴いた。また仮設住宅を訪れ話を伺った。

26日は全体会で「福島に生きる思い」をテーマに代表者によるわかちあいのあと今後の支援、具体的な取り組みについての話し合いが行われた。以下見聞したことを2回連載でお伝えしたい。

自主避難の実態

第1日目、郡山教会へ集合し、祈りのあと自主避難連絡会の代表から自主避難した経緯について以下のお話を聞いた。

郡山の自宅は半壊状態であったが、それよりも放射線によって日常生活が出来にくくなりストレスを感じるようになった。何よりも子どもたちへの影響を恐れた。

食品内の放射性物質の含有が１００ベクレル以下なら心配ないと言われても給食の安全性を巡って大丈夫だという人、反対する人、保護者同士の衝突やプールなど屋外活動にも心を痛めた。子どもを守る安全な環境ができないと判断し会津若松へ避難を決断。しかし既に一括借り上げされているところが多くて、高家賃、ワンルームだけが残った状態の中、引越し先が容易に見つからない。

しかも自主避難者には何の支援もなかった。子どもを守るためには止むを得ないと思いながらも残る人たちに対して後ろめたさもあり、近所の人にも言えず夜逃げ同然の避難だった。

その後、避難の形態に拘らず支援を求めて行政と交渉。1年余りかかって家賃支援が出るようになったものの、6万円以下の家賃であること、子どもがいることなどの制限があり受給を巡って分断されてしまった。

二本松教会へ

郡山から二本松へは車で約40分。車窓から見える広大な農地には早苗が広がり、穏やかな田園風景が続く。ここにも放射線に怯えて暮らす人々の生活がある。二本松教会で有機農業に取り組む大内信一さんから聞く。

3月11日当時、雪は消え種まきが始まっていた。温床では春野菜、夏野菜が育っていた。畑には昨秋に作付けしたほうれんそう、青菜、キャベツ、ネギなどが沢山あった。

ほうれんそうは葉を広げ放射線から土を守ってくれた。ネギはすべすべしているので放射線を寄せ付けず証明書をつけて出荷出来た。

野菜は放射性物質を根からは吸収しないが、水に溶けたものはどうにもならない。沢水を飲ませた牛は牛乳からセシウムが検出された。また、地元の米は嫌がられ学校給食に提供できない。40年培ってきた消費者との提携が60％減少し、販売に苦労している。地産地消も露と消え何も作らない人が増えている。

原町ベース

二本松から川俣町を経て今夜の宿泊地である原町ベースへ向かう。飯館村に近づくにつれ雑草が伸び放題になった農地の中に汚染物を詰めた黒い袋が並び除染作業がそこここで行われていることがわかる。

飯館村は有機農業が盛んで日本一美しい農業どころであったところと聞く。今は居住制限区域となり除染関係の車ばかりが走る。車内の放射線量は0・95マイクロシーベルトを指し示す。かなり高い。無人の町には空間線量を表すモニタリングポストが見える。

16時30分原町ベース着。早速畑中ベース長からベース報告を聞く。ボランティア活動は仮設住宅の人と交流を持つ屋内活動と避難指示解除準備区域の家屋内の片付けをする屋外活動がある。ここでは被災時そのままの状況の中で、解除に備えて屋内の片付けに取り組んでいる。

長野、神奈川、岐阜、広島からのボランティアが長期滞在しながら活動が継続されていた。

愛媛地区
TSC委員　佐々木和雄

新刊書籍紹介

■使徒的勧告　福音の喜び

キリスト教信仰を伝えるための新しい福音宣教」をテーマとした世界代表司教会議（シノドス）後の使徒的勧告。共同体、聖職者、そしてすべての信者に、自分自身の殻に閉じこもることなく外へと出向いて行き、弱い立場にある人、苦しむ人、貧しい人、すべての人に福音を伝えるよう強く促す。「熱意と活力に満ちた宣教の新しい段階」への歩みを望む教皇の思いが力強く表現され、希望と励ましに満ちた文書。　著者：教皇フランシスコ　判型：四六・上製　ページ数：272　本体価格：1600

■ユスト高山右近　いま　降りていく人へ

ときの権力者たちが一目置くほどの力を持ちながら、あえて降りていく道をたどった戦国大名、高山右近。生涯を辿りながらキリシタンとしての生き方に迫る。各章に歴史的出来事、人物などを解説、右近を知るための必携書。

もくじ：ユスト高山右近の列聖運動の今日的意義＝大塚喜直　イエスを学ぶ右近＝溝部脩　降りていく人たち　1・初めに神は　2・選びの器　3・梅見の中で　4・教会の柱石 伴天連の大旦那　5・愚か者のように　6・右近の信仰と茶の湯　7・降りていく人へ

著者：古巣馨　監修：カトリック司教協議会列聖列福特別委員会
新書版変形判205頁
定価（本体756円＋税込）　ドン・ボスコ社

司牧に役立つ車を譲ってください。

宣教司牧活動に使用します
お心当たりの方は是非お知らせを！

高松教区事務局
TEL：087-831-665
FAX：087-833-1484X

お知らせ：支援金はこれまで大船渡のみに限定していましたが、小教区独自の支援先への援助も自由です。

TSC 高松教区サポートセンター
東日本大震災大船渡支援
献金入金報告（含お米券）
5月分　74,990円
（内ワンコイン　41,040円）
累計14,409,212円

聖ドミニコ宣教修道女会

編集後記

今年は3年毎の大阪教会管区司牧者研修会が開催され、「違いが豊かさになる教会共同体を求めて」をテーマに3日間、熱心な分かち合いがなされた。

特に日本で働く多くの外国籍信徒との典礼や生活における違いをどのように、豊かなものとすることが出来るのか。これは高松教区においても喫緊の課題であり、邦人信徒の間においても同様の取り組みは欠かせない。

教区の優先課題である「再生と一致」という意識の中での取り組みになればと思う。

（J）

医療法人社団聖心会　阪本病院

わたしたちは、患者様の立場に立った全人医療を行い、地域の皆様に愛され信頼される病

院内保育園完備

整形外科・脳神経外科・泌尿器科
皮膚科・外科・消化器外科
肛門外科・乳腺外科・形成外科
呼吸器外科・呼吸器内科・内科
リウマチ科・放射線科・リハビリテーション科・麻酔科

〒769-2602
香川県東かがわ市川東103-1
☎0879-25-1121（代）
http://www.sakamoto-hosp.or.jp/

私たちは、自分を創造しようとするこどもをまなび、護りましょう

暁の星学園

鳴門聖母幼稚園　高知聖母幼稚園
阿南聖母幼稚園　海の星幼稚園